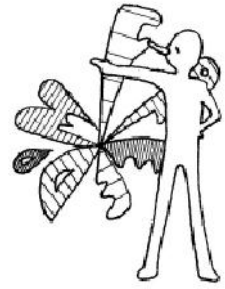


# Freedom



こうこうせい じんけんこうほうし フリーダム だい ごう  
高校生の人権広報誌 “Freedom” 第11号

ねん がつ にちはっこう  
2013年 1月11日発行

へんしゅう フリーダム へんしゅう  
編集 “Freedom” (フリーダム) 編集スタッフ

はっこう な ら けんこうとうがっこうじんけんきょういくけんきゅうかい  
発行 奈良県高等学校人権教育研究会

まいつき にち じんけん たし ひ  
毎月11日は「人権を確かめあう日」

ひがし に ほんだいしんさい ごうとう すいがい ひ さい  
東日本大震災、豪雨による水害により被災された  
かたがた ところ み ま もう あ  
方々に、心よりお見舞い申し上げます。



こんかい いっさくねん たいふう ごうとう ごうとう さいがい ひ さい ち し えんかつどう おこな  
今回は、一昨年の台風12号等による豪雨災害被災地への支援活動として行われ  
た「十津川古道整備」ボランティアの参加記を、2校から寄せていただきました。  
いろいろな かつどう き まな こと を 交流 しあう こと で、互  
いの 絆 を 深めていこう!!

と つ かわ こ どう せい び かつ どう  
「十津川古道整備」ボランティア活動に  
さん か  
参加して

な ら じょうほうしょうぎょうこうこう せい と かい じんけん  
奈良情報商業高校 生徒会・人権クラブ

がいよう ねん がつ にち な ら けんこうとうがっこうせい と かいれんらくかい と つ かわ こ どう せい び  
【概要】2012年9月15日、奈良県高等学校生徒会連絡会による「十津川古道整備」



ボランティア活動が実施されました。本校からは生徒会長の中井智也君をはじめ5名の生徒が参加しました。

当日、本校生徒5名と、他の高校や特別支援学校の生徒25名、引率の先生方を乗せたバスは、近鉄八木駅南口を午前6時30分、十津川村に向けて出発しました。途中、トイレ

休憩を取ったものの3時間もバスに揺られ、やっとの思いで現地に着くことができました。十津川村に入り、1年前の豪雨の爪痕が車窓から飛び込んで来るようになると、「私達のような高校生でも大丈夫かな…」「ボランティア活動を無事に終わられるのかな…」といった不安を感じながら、バスは予定通り現地に到着しました。

現地では、引率の先生方とともに、現地スタッフ（十津川村地域雇用創造協議会）の方々や、十津川高校の生徒さん13名と合流して活動をはじめました。当初の計画では2班に分かれ、玉置山周辺と十津川古道の整備（道普請）を別々に担当することになっていましたが、あいにく降り出した雨の影響で、十津川古道の整備を全員で行うことになりました。

午後3時30分、活動を終え、十津川村のご好意で温泉に招待して頂きました。温泉はとても気持ちがよく、活動での汗を洗い落とし、心身の疲れを癒やすことができました。湯船に浸かりホッとしていると、「ボランティア活動に参加して良かったあ…」「少しは皆さんのお役に立てたかなあ…」と感じた一方で、「これだけで良かったんだろうか…」「何かやりの残したことはないだろうか…」などといった気持ちにもなりました。そんな充実感と不安な気持ちを持ちながら十津川村を後にしました。

午後8時、バスは近鉄八木駅南口に無事に到着しました。ボランティア活動と長時間のバス移動の疲れもありましたが、充実感や達成感を感じるとともに、改めて『絆』という、たった一文字の漢字の持つ奥深さを胸に抱き、全員元気に帰路につきました。

**【インタビュー】** それでは、ボランティア活動に参加した本校生徒を代表して、生徒会長の中井君にインタビューをしたいと思います。インタビュアーは

せいと かいやくいん じんけん おおはらあんり ねが  
生徒会役員で、人権クラブのメンバーでもある大原安莉さんをお願いします。

Q 十津川へのボランティア活動へ参加しようと思ったのは？

A せいと かいちよう やきゅうぶ がっこうしゅうへん せいそうかつどう  
生徒会長をしていることもあるのですが、野球部で学校周辺の清掃活動をしていたので、引退しても何かお役に立てることがあればと思っていたところ、せいと かい せんせい こえ せいと かい なかま いっしょ さんか  
生徒会の先生から声をかけられ、生徒会の仲間と一緒に参加することにしました。

Q あさ はや しゅっぱつ  
朝の早い出発はどうでしたか？

A やっぱり辛かったです。

Q い ようす  
行きのバスの様子は どうでしたか？

A そうちよう しゅっぱつ はじ み た こうせい おお ね  
早朝からの出発であったことや、初めて見る他校生も多くいたことから寝てしまいました。でも、とつかわむら はい がけくず あと あ は  
十津川村に入ると、崖崩れの跡や荒れ果てたダムなどが目に飛び込んでくるようになり、こんかい ごうう いりよく ひさん おどろ  
今回の豪雨の威力と悲惨さには驚きました。

Q かつどう ばしょ ないよう  
活動の場所と内容は？

A あいにく あめ ふ だ よてい けいかく へんこう ぜんいん みちぶしん  
あいにく雨が降り出し、予定されていた計画は変更され、全員で「道普請」の作業をおこなうことになりました。げんば つ がけくず あと みち  
現場に着くと、崖崩れの跡、道をふさいでいる大量の葉っぱや小枝、ところどころ たいぼく たお あらた ごうう はげ  
所々には大木が倒れていて、改めて豪雨の激しさを目の当たりにしました。でも、みんなで協力して当初の計画以上の活動を行うことができました。

Q かつどう お かん  
活動を終えて感じたことは？

A とつかわむら こうい おんせん い いただ おに すこ き  
十津川村のご好意で温泉に入れて頂きました。イオウの臭いが少し気になりましたが、とても気持ち良く温泉に入らせて頂きました。また、げんち スタッフ  
の中に十津川高校野球部の子がいて、その子とも友達になれたことも良かったです。

Q かえ ようす  
帰りのバスの様子は どうでしたか？

A すみません。つか きも おんせん ばくすい  
すみません。疲れと気持ちよかった温泉のせいで、爆睡してしまいました。

Q かつどうぜんたい とお かんそう  
ボランティア活動全体を通しての感想は？

A すこ やく た おも さんか よ  
少しでもお役に立てたと思うと、参加して良かったと思います。じもと ひとたち とつかわこうこう せい  
地元の人達や十津川高校の生徒さんから「ありがとう」という言葉に、私も「ありがとう」と感謝したい気持ちになれた事が大きな収穫でした。また機会があれば参加したいと思いました。



Q 生徒のみなさんに何か伝えたいことがありますか？

A 人を思いやる気持ち、人の役に立てる行動の大切さなどをみなさんに伝えたいです。あと、東日本大震災や十津川豪雨などへのボランティア活動も大切な事ですが、身近な所にも目を向けて欲しいと思います。私は、大学へ進学しても野球を続けたいと思っています。野球が出来る喜びと感謝の気持ちを大切にするとともに、今回の活動で学んだことを、野球を通して何か社会に恩返ししたいと思っています。

Q ありがとうございます。これでインタビューを終わります。私も、生徒会の一員として、また人権クラブの部員として参加出来たことを大変うれしく思っています。私は、医療福祉関係の仕事に就きたいと思っているので、専門学校に進学しますが、中井君と同じように、この経験を将来の勉強や仕事にも生かしていけたらと思っています。



※写真は、奈良県ホームページ掲載の「奈良県高等学校生徒会連絡会『十津川古道整備』ボランティア活動実施報告」(<http://www.pref.nara.jp/secure/65294/totukawamichibusin.pdf>)より転載させていただきました。

## 「十津川古道整備」に参加して **【投稿】**

9月15日、十津川村にボランティアに行きました。バスの中では初めての人ばかりだったので、緊張しました。前に座っていた男子生徒が話しかけてくれました。その後いろいろな人と話をし、少し緊張がほぐれました。十津川村近



くの山道を走っていると、崖崩れがひどいところがありました。僕が住んでいる御杖村も今年の台風で川の水位が高くなりましたが、ここまでひどくはなかったです。十津川村に着くまでとても遠かったです。

古道整備では、竹ぼうきやレイキを使ってきれいにそうじをしました。休憩時間には十数名で古道がどこまで続いているのか、歩いてみました。どこまでも続いていました。玉置神社は古くて歴史を感じました。そうじはみんなで話ししながらしたので、そんなにしんどくありませんでした。でも、そうじする



ところまでの山道を歩くことや、玉置神社からバスの駐車場まで歩いた道のりがとても疲れしました。疲れたけどいい経験になりました。また行きたいです。

(二階堂養護学校 岩下 哲也)

## 犯罪被害者～絶望と希望のはざままで～

添上高校スタッフより

添上高等学校解放研究部はこの一年、犯罪被害者の人権問題について取り組みました。その一環として奈良と大阪で行われた犯罪被害者の会の集會に参加し、過酷な犯罪被害者の現状を目の当たりにしました…。

2012年10月20日、帝塚山大学で犯罪被害者の会「あすの会(\*1)」の講演が行われました。この講演では、まず臨床心理学の三木善彦教授が世間に認知されてなかった犯罪被害者の人権・処遇について話されました。そして、自分達の現状を「人形劇」という分かり易い形で訴えておられました。劇の内容は娘を殺害された夫婦の物語で、遺族の介入が許されない司法体制・連日押しかけられて被害者を苦しめるマスコミ・事件が原因となる被害者の家庭内不和について描かれていました。かつての司法体制では被害者の精神的回復を目的としない事が明言されており、人形劇のような悲劇が多く起こっていました。ゆえに、被害者の心には「絶望」しか残らない事が多いのです。人形劇の後には、「あすの会」の会員である犯罪被害者の方々がそれぞれの想いを告白しました。それぞれの人が大切な人がある日突然失い、司法から爪弾きにされた過去を明かし、自らの絶望を語りました。しかし、「あすの会」の人々は希望を見出そうと活動を続け、その甲斐あってか被害者が法廷で意見を述べる事ができる「被害者参加制度」が

定められました。被害者の介入が許されなかった過去の司法体制と比べると大きな進歩です。しかし、「あすの会」にボランティアとして参加している男性は、制度の制定に導いた被害者が恩恵を受けられない事を「井戸を掘った者が水を飲めない」と表現されました…。

10月28日には、大阪で「少年犯罪被害当事者の会（\*2）」の集会「will」が行われました。集会の第一部では、過去に未成年者による犯罪で子供を失った遺族がその悲痛な想いを打ち明けました。それには、大切な我が子を失った悲しみ・少年法によって加害少年の人権しか守られていない事に対しての憤りが込められていました。第二部では、被害者遺族・弁護士・法務省職員・記者によるシンポジウム（公開討論）が行われ、少年法改正についての意見交換がされました。少年法の壁によって気持ちが伝わらない・加害少年から謝罪の言葉がない・5年から10年と刑期が定まっていない不定期刑という判決しか下されずに被害者が知らない内に早期出所して社会復帰している…という問題が起こっています。刑事裁判で神経を磨り減らしてしまう遺族は賠償金を求めて民事訴訟を起こします。これは金目当てではなく、せめてもの「救い」を求めているだけです。しかし、加害少年の中には雲隠れして賠償金さえ支払わない者がいます。また、検察が審判に関わらない為に十分な事実認定が行われず、加害少年の意見ばかりが通ってしまう恐れがあります。だからこそ、少年法の改正が求められています。とは云え、どれだけ長く加害少年を更正施設に入れても、加害少年が罪に向き合わなければ本当の意味で「更正」する事はありません。少年法改正と同時に、加害少年の周囲の環境を改善する事も必要です。

このように、犯罪被害者を支援する活動が各地で行われていますが、まだまだ課題が多くあります。自分達一人一人がこの問題について考える必要があると、私は思います。

そえかみこうこうかいほうけん ぶ ちょう ねん ふじわら りょう  
(添上高校解放研部長 3年 藤原 凌)

## \*資料1 あすの会

被害者の訴訟参加制度と経済的補償制度の確立を目的に2000年に犯罪被害者遺族によって結成された。「ヨーロッパ調査」「署名活動」「陳情活動」「小泉首相（当時）との面談」を行った。「あすの会を支援するフォーラム」「あすの会顧問弁護団」に支えられ、10年以上活動を続けている。

しりょう しょうねんはんざい ひ がいとう じしゃ かい  
\*資料2 少年犯罪被害当事者の会

ねん がつ しょうねんはんざい こども うしな いぞく けっせい ひ  
1997年12月、少年犯罪によって子供を失った遺族によって結成される。被  
がいしゃもんだい り かい ふか しょうねんほう あ かた か ため かつどう  
害者問題についての理解を深めてもらい、少年法の在り方を変える為に活動  
している。「will」は、一般人に対してこの問題を啓発する為に1999年から毎  
としあき かいさい しゅうかい めいしょう  
年秋に開催されている集会の名称。

“ヒューマンな”映画を味わおう！ **【投稿】**

たか だ こうこう い いんかい  
高田高校ヒューマンハート委員会

たか だ こうこう い いんかい かつどう いっかん な  
高田高校では、ヒューマンハート委員会の活動の一環として、その名にちなん  
で、“ヒューマンな”内容の映画を鑑賞してその感想を書く、“ヒューマンな”  
えい が あじ き かく えい が み  
映画を味わおう！”という企画があります。ヒューマンドラマ映画を見ることで、  
なに かんが かん  
何かを考えたり、感じたりするきっかけにしよう！というものです。

ヒューマンドラマはほんとに人間味が溢れていて好きな人も多いと思います。  
さわ かんどう あた やさ き も さくひん  
爽やかな感動を与えてくれたり、優しい気持ちにしてくれる作品もたくさんあり  
ます。

こんかい さくひん かんそう か ひと  
今回は2作品について感想を書いてももらいましたが、そのうちの一つについて  
ヒューマンハート委員 かい かんそう しょうかい  
が書いた感想を紹介します。

えい が ま み  
<映画「インビクタス～負けざるものたち～」を見て>

じゃくしょう ゆうしょう みちび き  
弱小チームを優勝まで導くようなストーリーというのはいくつか聞いたこ  
とがありますが、この映画は、それまでの過程が他の映画と違うと思いました。  
だいてうりょう じんしゅかくり せいさく たたか ろう や い  
マンデラ大統領は、アパルトヘイト（人種隔離政策）と闘って牢屋に入れられ、  
ねんかん ごくちゅう せいかつ ほん し よ だいてうりょう  
27年間も獄中で生活し、そこで本や詩を読んだりしていました。大統領は、  
みずか ろう や い もの にく ゆる き も も ぼく しょう  
自らを牢屋に入れた者を憎むどころか、赦す気持ちを持っていたので、僕は正  
じき びっくりして信じられない気持ちになりました。そのようなひとをもゆる  
うのは、とても強い心を持っていると思います。かれ くに か みなみ  
彼が国を変えようと、南ア

リカラグビー代表のフランソワを招いて話をして、フランソワ自身にも国を変えようとする心が芽生え、チームメイトを変え、国を変えようと決して諦めずに努力する姿がすごいと思いました。その努力が実を結ぶのはすごいなと思います。スポーツの力によって、国中を盛り上げてひとつにし、肌の色の違いによる隔たりをなくし、白人も黒人も共存できる環境を構築するというのは全く思いも付かないことで、素晴らしいと思いました。僕は、マンデラ大統領のような寛大で優しき心を持って、憎んだり恨んだりしないで、全ての物事を良くとらえ、自分もその周りを変える気持ちを持ちたいと思います。

(※「インビクタス／負けざるものたち」は2009年公開のアメリカ映画です。)

高校生の人権広報誌 “Freedom” 第11号 (2013年1月11日発行)

編集 “Freedom” (フリーダム) 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1 奈良県解放センター内

TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

HP <http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/>

※ ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。

※ 本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。(「高人教」で検索してください)

※ 本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。